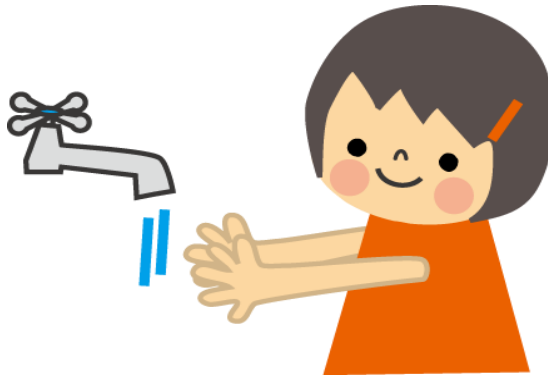


# 手指衛生研修 手順書



群馬県感染症対策連絡協議会 ICN 分科会

教育ワーキンググループ

平成 27 年 5 月作成

## 手指衛生の演習方法

蛍光塗料を用いて擦式アルコール製剤・石鹼と流水による手指衛生の方法を評価する方法です。

## この演習でできること

1. 蛍光塗料を用いて、正しい擦式アルコール製剤・石鹼と流水による手指衛生の方法を対象者に教えることができます。
2. 蛍光塗料を用いることで、どの程度正確に手指衛生が出来ているのかを体験者自身が確認することができます。
3. 蛍光塗料を用いることで、体験者が出来ていない点を指導者が確認することができます。
4. どこかでできていなかったかを記入してもらうことで、実際に行えていなかった場所の評価ができます。

## 演習の実際

### 【準備するもの】

- ブラックライト（県医師会で貸出あり）
- 蛍光塗料（県医師会で貸出あり）
- 水道
- 石鹼
- ペーパータオル
- ゴミ箱
- 色つきペン、色鉛筆等色塗りをするための文房具
- 擦式アルコール製剤の使用手順、手洗い手順のパンフレット（必要時）
- 秒針のある時計（必要時）

### 【演習準備】

1. 演習を行う人数に合った会場を選定します。  
演習人数に応じ水道の数なども考慮しておきましょう。
2. 演習時間について  
演習の方法の説明、演習、評価の記録をするには、10人程度で15分程度の時間を要します。ただし、初めて演習を行う場合は、それよりも長い時間がかかります。時間配分の参考にしてください。
3. 蛍光塗料は使用前に良く振っておきましょう。また、演習前に蛍光塗料の量があるかを確認しましょう。
4. ブラックライトが点灯するか確認しましょう。

【演習手順】

＜演習方法①＞

蛍光塗料を全体に擦りこんだことを確認した後、流水と石鹸で手指衛生を行う方法

|   |   | 指導や観察のポイント（☑で確認）  |
|---|---|---|
| 1 | 準備  |   |
| ① | 会場セッティング<br>指導しやすいように物品を配置する。<br>水道近くにペーパータオル、ゴミ箱を設置する。<br>必要に応じ、水道付近に手洗い手順パンフレットを配置する。 | ☐水道が会場より離れている場合、蛍光塗料が付着する可能性があるため、手でドアを開ける必要がないよう準備しておくが良い。   |
| ② | 演習方法を説明する。  |   |
| 2 | 蛍光塗料を擦りこむ   |   |
| ① | 蛍光塗料を1～2プッシュ手に取り擦りこむ。   |   |
| ② | ブラックライトで手・手首全体に濡れているかを確認する。   | ☐指の股、親指、爪周囲、手首は塗り残されていることが多いため注意する。   |
| ③ | 塗り残しの部分は、再度蛍光塗料を塗ってもらう。   | ☐蛍光塗料が全体に塗れていないと流水と石鹸での手指衛生の評価が正しく行えなくなってしまう。   |
| 3 | 流水と石鹸による手指衛生  |   |
| ① | 流水と石鹸による手指衛生を実施する。<br>＜方法1＞<br>通常通り手指衛生をする。<br>＜方法2＞<br>手洗い手順を確認し丁寧に手指衛生をする。            | ☐石鹸を使用しないと蛍光塗料が落ちないため、必ず石鹸を使用してもらう。<br>☐実施内容により、方法1または方法2を選択する。方法2を選択する場合には水道付近に手洗い手順のパンフレットや時計が置かれている方が良い。   |
| 4 | ブラックライトによる確認  |   |
| ① | ブラックライトで蛍光塗料が落ちているかを確認する。   | ☐指先、指の股、親指、手首が洗い残されていることが多い。<br>☐どのように洗えば蛍光塗料が落ちるのか洗い方の指導を行いながら確認すると良い。<br>☐手荒れしているところは、まだらに蛍光塗料が残る。手荒れは感染の原因となるため手荒れ予防の指導をすると良い。<br>☐傷のあるところは蛍光塗料がはっきりと残る。 |

|   |  |                                     |
|---|--|-------------------------------------|
| ② | 蛍光塗料が落ちていない場合は、再度流水と石鹸による手指衛生を行い、ブラックライトで確認する。 |                                     |
| 5 | 記録   |                                     |
| ① | 蛍光塗料の落ちていなかった場所を、記録用紙に記入する。                    | □色鉛筆などにすると色の濃淡が表現できるため、体験者が塗りやすい。   |
| 6 | 片付け  |                                     |
| ① | ブラックライトや蛍光塗料置場周囲は、蛍光塗料が付着しているため、清掃する。          | □蛍光塗料は時間が経過すると落ちにくくなるため、演習直後に清掃を行う。 |
| ② | 水道周りが濡れていないか確認する。ゴミを片付ける。                      |                                     |

### <演習方法②>

蛍光塗料を擦式アルコール製剤に見立てて擦りこみ後、蛍光塗料を汚れと見立てて流水と石鹸で手指衛生を行う方法

|   |  | 指導や観察のポイント  |
|---|--|---|
| 1 | 準備   |   |
| ① | 会場セッティング<br>指導しやすいように物品を配置する。水道近くにペーパータオル、ゴミ箱を設置する。<br>必要に応じ、蛍光塗料付近に擦式アルコール製剤手順パンフレット、水道付近に手洗い手順パンフレットを配置する。 | □水道が会場より離れている場合、蛍光塗料が付着する可能性があるため、手でドアを開ける必要がないよう準備しておくが良い。   |
| ② | 演習方法を説明する。   | □作業が複雑なため、説明をきちんと行うことが必要。   |
| 2 | 蛍光塗料を擦式アルコール製剤に見立てて擦りこむ  |   |
| ① | 蛍光塗料を1～2プッシュ手に取り、擦式アルコール製剤に見立てて擦りこむ。<br><方法1><br>通常通りの手順で行う<br><方法2><br>手順のパンフレットを確認しながら擦りこむ。                | □実施内容により、方法1または方法2を選択する。方法2を選択する場合には蛍光塗料付近に擦式アルコール製剤手順のパンフレットや時計が置かれている方が良い。<br>□ブラックライトでの確認前に擦りこみすぎると正しく評価できないため、手順が終了したらそれ以上擦りこまないようにアナウンスする。 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 3 | ブラックライトで濡れているかを確認する   |   |
| ① | ブラックライトで手・手首全体に塗れているかを確認する。   | <input type="checkbox"/> 指の股、親指、爪周囲、手首は塗り残されていることが多いため注意する。           |
| ② | 塗り残されている部分は再度蛍光塗料を塗り、全体に塗れるようにする。   | <input type="checkbox"/> 蛍光塗料が全体に塗れていないと流水と石鹸での手指衛生の評価が正しく行えなくなってしまう。 |
| 4 | 流水と石鹸による手指衛生 *演習方法①と同様  |   |
| 5 | ブラックライトによる確認 *演習方法①と同様  |   |
| 6 | 記録 *演習方法①と同様  |   |
|   | <input type="checkbox"/> 記録は演習方法①と同様である。<br><input type="checkbox"/> 2つの演習が混在しているため、塗り残しや洗い残しの記憶があいまいとなる危険性がある。<br>「4流水と石鹸による手指衛生」が終了した後、擦式アルコール製剤に見立てた場合の塗り残しを記録し、流水と石鹸による手指衛生のブラックライトによる確認を行うことでできる限り正確に記録することもできる。 |   |
| 7 | 片付け *演習方法①と同様   |   |